## 第6回「長池ぽんぽこ祭り」

# 講師田中純

### はじめに

講師なんていうと偉そうですが、「毎年こんなことをやっていますよ」ということをお話しさせていただきます。 何なりと質問してください。

本日の進め方としては、自己紹介の後、多摩テレビが 取材した2009年の長池ぽんぽこ祭りの様子を5分ほど 視聴していただき、その後、資料をもとにお話しさせて いただきます。

### 自己紹介

私・田中純は、1956年6月26日生まれ53歳 蟹座 〇型博愛型の人間です。

小平市へ通勤する会社員。最近は IC の設計の仕事から輸出管理に移行してきました。技術者 2 ~ 3,000 人の仕事を国の条件に照らしてチェックしています。 コンプライアンスの仕事です。

趣味は、ジョギング、マラソン大会に参加することで、スキーは18歳から始め、27歳で1級を取得しました。 SLも大好きで、今でも追っかけをやっています。1997年8月から長池地区に住み、富永さんと知り合って、NPOフュージョン長池の理事にもなり、今日まで活動を共にしています。

### DVD 視聴 その内容から

長池ぽんぽこ祭りは見附ヶ丘連絡協議会主催 NPO 法 人後援で催されています。

タ暮れのフラダンス。巨大カメと遊ぶコーナー (2009年 初めて参加) などの映像の後に、お祭り事務局のインタビュー が収録されています。

そもそも地域のコミュニケーションを図ろうと、知らない人同士が集って、交流のきっかけづくりから始まりました。 長池ぽんぽこ祭りが地域にとけこみ新しい人の参加も増えてきました。

ぽんぽこかわら版 No.64 は、1,2 頁に祭り特集を掲載。 この写真に写っている位の人数が集まってきているので す。



### 長池ぽんぽこ祭りの歴史

せせらぎ北団地(私の住んでいる団地の隣)で行われた「平成たぬき合戦ぽんぽこ」上映会がきっかけになり、その団地の当時の理事長富永一夫さんの主唱で、各団地の楽しみ方で見附ヶ丘フェスティバルを開催しましょうということで、1997年、長池公園姿池周辺に各団地がテントを出して、見附ヶ丘フェスティバルを実施しました。1998年、私の入居した団地も初参加したのですが、台風禍の為、せいがの森保育園の屋内や各団地集会所で実施しました。

1999年からは、名称も現在の長池ぽんぽこ祭りに改称され、最初は富永さんと田中が中心となる態勢だったのですが、富永が NPO フュージョン長池の活動へ主軸を移した為、お祭りのほうは田中事務局長の体制となりました。2000年まで日中の 15 時終了で行なってきましたが、2001年からは、電源配置作業も主導可能になったので、本格的なお祭りらしく、時間帯を夕方に移行しました。その後は年々参加者も増加してきました。

### 第6回「長池ぽんぽこ祭り」

#### 長池ぽんぽこ祭りの歴史

1995年:せせらぎ北団地で「平成狸合戦ぽんぽこ」の

上映会実施

1996年:第1回 長池ぽんぽこ祭り(当時は見附ヶ丘フェスティバルという名称)実施

夏休み最後の日曜日、各団地で、それぞれの楽しみ方で実施(日時の統一ができた)

1997年:第2回 長池ぽんぽこ祭り実施

長池公園・姿池周辺に各団地模擬店出店 (日時、場所の統一ができた)

1998年:第3回 長池ぽんぽこ祭り←私、初参加 ただし、台風直撃のため規模を縮小し、一部 屋内で実施

1999年

~2009年:第4回~第14回 長池ぽんぽこ祭り実施 (2001年から夕方の開催となった)

### 長池ぽんぽこ祭り開催に向けての コーディネーターの役割

お祭りの準備は、メールの交換と月1回の対面会議で情報の受発信を実施しました。情報共有の核をコーディーター(田中)が務めています。毎年、多くの団地・管理組合では、5,6月に役員交代をするので、申し送りが行われ、新役員さんが引継ぎを終えて会議に出席してくださいます。

準備については各団地流のやり方にまかせ、ペースを 見ながら全体の調整を図っています。7月頃から各団体 の提案の重複調整などに入ります。広報が重要なので、 例えばポスターを製作し、近隣の店舗などにお知らせの 協力を得ています。かわら版7月刊では、お祭りの予 告をし、地域全戸に見ていただけるよう、ボランティアの 方が配布協力をしてくださっています。官公署への届け をし、全体の流れを見ながら、当日の役割を各団地等 へ割当てています。事務局の役割は、当日は黒子に徹 して巡回し、9月の反省会で総括し、来年に備えるのです。2009年のお祭りも事故などなくほっとしているところです。

本腰を入れるのは例年6月からです。行動の割当や強制はなく、各団地等の進行準備の調整と、会場全体とそのインフラの取り仕切りが重要な仕事になります。

### お祭りの経営の条件

何故今日まで続けてくることができたのかを、お祭りの経営条件からみてみましょう。

人:これは地域の人。

その集まる場の取り仕切りをします。

物:長池公園のあることが大きい。そこに各団地等から テントなどを持ち寄ります。

金:会場全体、照明のための工事が必要です。その費用は用意しなければならないので、9団地で分担捻出しています。その他費用のかかるのは、ポスター製作、オーディオ機材の手配などです。模擬店の売上で負担金も捻出し、各団地等は持ち出しが無い程度の単価設定で、±0になるようにしています。一言でいうと、自己負担の地域大宴会と言えます。地域で楽しみ、その費用も皆で分担持ち寄り、究極の受益者負担です。家族総出で楽しむ光景も増えてきました。

情報:共同のポスターや、ぽんぽこかわら版で広報活動をします。運営の情報はほとんどがメールのやりとりです。それができない人は月1回の会議に出席して情報を入手するようにしています。

時間:各自、楽しみに応じて無償で時間を持ち寄っています。

#### <u>長池ぽんぽこ祭り開催へ向けてのコーディネターの役割</u>

4月:各団地自治会役員への呼びかけ (今年もやりますよ~)

5月:各団地自治会の準備状況確認 (お祭り準備開始をフォロー)

(の宗り华禰開州のでフォロー)
6月:各団地自治会の準備状況確認
(参加希望者の墓集、調整)

7月:各団地自治会の準備状況確認 (模擬店、演奏内容の調整、広報活動)

8月:各団地自治会の準備状況確認 (警察、消防への届出、パトロール人員の確保)

8月末土曜日:長池ぽんぽこ祭り本番 (お祭り運営と参加者の安全の確保)

9月:反省会実施→来年への引継

☆メールと月1回の会議で進捗や情報の横通しを実施

#### お祭りの経営の条件

人 :地域人

物 :長池公園、各団地のテント等

金 :会費制(受益者負担) ±0のお祭 り

情報:ポスター等を各団地に出す

時間:ボランティア時間を提供

### 第6回「長池ぽんぽこ祭り」

### 協働とその組織

協働とその組織は、何よりも地域人が支えています。教 育人に関しては、地域に立地している保育園、小学校 にはテント貸し出しなどの協力を得て行なっています。 企業人に関しては、日本タスクスの電気工事の協力やコ ルトーナ多摩とはプログラム調整が必須になります。コル トーナ多摩の場合、当日、結婚式がなければ参加もあ るのですが、毎年結婚式が入るようです。指定管理者 としてフュージョン長池公園が、長池公園の管理を八王 子市から受託していること、これが空間利用の便を支え ています。もちろん、八王子市の使用許可協力が基本 の土台であります。そうした重層的な役割分担によって、 お祭りは実現しているといえますし、プロジェクト型の組 織で祭りを運営しているのです。その日だけの集中的な 仕事から6ヶ月に渡る緩やかな準備まで、これらをコー ディネートしているのが私、事務局人、地域コーディネー ターの役割です。

### 事務局=お祭り経営人

大ざっぱに「こんなイメージのお祭りをやりましょう」と声をあげるのが事務局(田中+石倉)。これは下支えで、皆が主役、地域の人がやりたいことをやりやすくなるように調整することが大事です。初めて参加のタップダンス、フラダンスについては、例えばエレクトーン天幕の準備とコルトーナ多摩とも音を出す時間などを調整する必要がありました。まだ14回です。誰かが″やりましょう″と声を上げないと始まらないのです。

#### 事務局=お祭り経営人 お祭りの主役 模擬店運堂 模擬店運堂 模擬店運堂 模擬店運営 (自治会役員) (自治会役員) 下支え事務局 事務局 田中(メイン担当、安全面)/石倉(サブ担当、演奏まとめ ☆事務局は、お祭りの経営をするが、主役は地域の人。 ・お祭り準備開始時には、トリガーをかける。 各自治会の参加内容には関与せず。 ☆事務局は、お祭りの下支えに徹する。 ・各自治会役員は毎年交代(=お祭り運営にはアマチュア) ・事務局は、各自治会役員のバックアップが主業務(安心して準備できるように)

その声出しが私 (事務局)です。

主役は地域人です。地域の自治会・管理組合とその構成員の市民です。一方、主役側の多くは、毎年役員を交替して、お祭りも初めての人が多いので、問い合わせ、質問などがあれば、事務局が丁寧に毎年の経験で答え、説明してきました。

それも、あくまで下支えです。

「コーシナサイ、アーシナサイ」とは決して言いません。

公園がなければできないし、あればできるというものでも ありません。そこに表土となる事務局担当の NPO 法人 指定管理者がいて、お祭りそのものを花開かせるのです。 花を咲かせるお祭り事務局と公園所有者である岩盤事 務局の八王子市を表土事務局が繋いでいるというわけで す。

#### 協働とその組織

☆地域人

☆教育人(保育園)

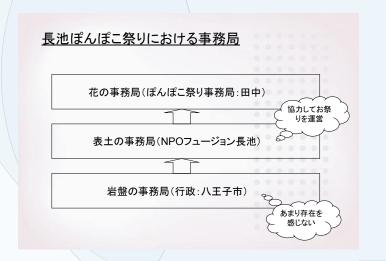
☆企業人(日本タスクス、コルトーナ多摩)

☆NPO人(NPOフュージョン長池)

☆行政人(公園の貸出許可)

等々の人々がお祭りのために協力して働き、 お祭りが終わると解散する。

→プロジェクト型の組織でお祭りを運営



### 第6回「長池ぽんぽこ祭り」



こちらはお祭りの準備状況写真です。

模擬店のため、焼きそば訓練をやる自治会テントもあります。電気工事や駐車対策は充分に安全を期して実施しています。

10年間で、約10倍の人が参加するようになり、事務局やコーディネートはやめるにやめられないともいえます。

富永:講師のお話が一段落しましたが、あと5分あるので、 事務局長1代目から2代目にどう移行したかを細く説明 いたしましょう。

富永は 1994 年から在住し、田中さんは 1997 年から在 住されています。

急に仲良くなれるわけないと思い、まず管理組合理事を 務めました。

そして、翌年1995年、阪神淡路大震災が起こりました。 勤務先の工場が関西神戸にあり、従業員多数が被災したのです。地域の知人がいる人は助けられたことを衝撃的に学び、何かやらねばと思い始めました。そこで「平成狸合戦ぽんぽんこ」上映会の開催から始め、地域力は忍耐力と思い定めて、近隣の5団地に声をかけ、各団地でのお祭りの同日開催にこぎつけたのです。しかし、やってみるとこれでは面白くないので、次には各団地テントー張持ち寄れば6帳集まるので、6倍楽しめると、一箇所にまとめてみました。 しかし、1998年 NPO 法人を設立し、富永は退職して NPO 法人を始めました。お祭りでは食えないので、事 務局の主役を、会社勤めの田中さんに譲って、NPO 法 人活動に主軸を移したのです。

カメラ担当の川端さんの発言:

私も毎年祭を楽しんでいるので、実感しているこのお祭 の特色を二つ補足させていただきます。

近所の商店に寄付を求めることは一切ありません。21 時終了後、祭りのあとには、ゴミーつなくなります。この点が他のお祭りとの大きな違いです。

富永:お祭りを始めると、やっているうちに、先輩や年配の人から、ご近所から寄付を集めてこい、それは事務局の役割だと意見が出るのです。そこで、先輩や年配の人に反発してはいけないと、やってみたのですが出来ませんでしたとあきらめてもらいました。また、お祭りには盆踊り、ヤグラと提灯をといわれたのですが、それも設置できるようなお金はないということで、あきらめてもらいました。

2001年からは、長池公園自然館の受託者として電源配置作業も主導可能となり、やっと夜間にやれるようになったのです。



### 第6回「長池ぽんぽこ祭り」

### 質疑応答

質問 事務局で動かすお金は?

田中: 今年2009年は約40万円。電気工事22万円 エレクトーン関係5万円保険・ポスター2万円などで、 初めて余剰金が11万円ほど出ました。2008年、電気 工事に32万円かかったので、用意したのですが、2009 年は工事を一日に合理化し、22万円に下がりました。こ うした余剰が出たのは初めてです。

ということで、事務局を通して動くお金は  $30 \sim 40$  万円。 各団地が 1 店あたり  $5 \sim 15$  万円 動かすとすれば、全体で 100 万円といえるかと思います。

富永:私の住むせせらぎ北団地の場合、まず自治会から運転資金10万円を借り出し、焼そば300円/食×500食の売上を目指します。その売上から電気工事分担金も出し、借り出しはそのまま戻ってくる計算です。各団地とも±0に近づいていることでしょう。

田中:電気工事分担金などは、模擬店を出す団体は3,5万円で、個人は0,3万円を分担して拠出しています。 各店、各人が±0になるよう工夫しています。

質問:計画する力はどこにあるのか。私の団地は、祭りは段々縮小してしまう。何故ぽんぽこ祭りは規模が大きくなるのか、その理由は?ゴミの対応と経費は不思議だ。

田中: 例えば、私が参加している近所の人とのゴルフのサークル、これが続いているのは幹事固定だからです。年4回、きちんとコンペを実施しています。ぽんぽこ祭りも「やりますよ」と声を出す人が大事なのです。次に楽しいお祭りのイメージを共有することです。「みんなが何かやっているのに、うちの自治会のテントはない」と言って参加したいという声を出してきたところもありましたので、どうぞと歓迎しました。来る人拒まずです。(もちろん居住者に限るという条件で)来やすい雰囲気や子供さんが楽しみにしているので、疲れたと言いつつもニコニコやっていますし、また来年につながっているのです。これからも少しずつ拡がる方向にあります。声がかかればイヤイヤかもしれませんが、「楽しかったね」で終るのです。ゴミについては、参加者単位に対応してもらっています。

出店の前に箱を置き、自分たちで持ち帰って下さいと呼びかけを徹底しています。事務局には処理能力なしに徹して、決して背負いこむことはしません。翌朝見て廻るといささかはあるものの、皆さんに報告をするほどではない程度です。2009年はボーイスカウトの協力もありました。とにかく原則どおりに撤収時に各団体が責任をもってやってくださっています。

富永:この指とまれ方式です。私が事務局をやりますという人が定点で動かないことが肝心です。やらない気分の人が事務局になると、この気分が拡がって縮小していくのです。事務局は一人ではできませんが、二人しかいないということを強みにしています。商売人を一切入れないことも、皆でやろうという気になる要因です。今作る人が、今食べる人にと同じ人が立場を変えていくことが共感につながるのです。ネーミングも大切です。「ぽんぽこ祭り」平仮名でやわらかく丸く丸く・・・と勝手に物語をつけることが大切です。ゴミ問題も最初からのしつけが大切です。一番最初はマイクを使って、ゴミ片付けを怒鳴ったこともあります。

会合月1回の原則は大事で、毎週会合などでは辛くなって、役員はもう今年限りの気分になってしまいます。会合は最小限が肝心です。事務局は一つでなく、重層なのも重要です、八王子市に安心してもらっていることが大事です。そして、背後からの支援を指定管理者が行ない、事務局と自治会を支えるのです。行政が祭りの事務局をやるのは愚策です。

カラーコーンの移動も車が使えるようになって、あっさり出来るようになりました。NPO 法人の車を、NPO 法人理事でもある田中さんが借り出してすぐできます。お祭りの増巾にはこのような地域の歴史的な積み上げがあるのです。



### 第6回「長池ぽんぽこ祭り」

質問:お祭りに各団地の役割は決めているのか?

田中: それぞれ団地がやりたいことを決め、必要なら調整しています。押付や割当はしません。

富永:多くの事例は、事務局が押付け分担をしがちですが、長池ぽんぽこ祭りは押付ません。任意参加の団地あり、パスをする団地あり、我が団地は焼きそばに徹する、など、それぞれでよく、それぞれがよいのです。

質問:何が祭りのメイン行事とかはないのですね?

田中:皆で楽しもう。地域の大宴会。雨だったら止めて来年にしましょう。たまたま・・・したい、いいでしょう。それぞれがやることを楽しんでいるのです。テーマを決めようというの意見も出ましたが、誰がどのようになってしまい、やりたいものから離れていってしまうのです。

富永:このまちは口うるさい人が多い所です。目的は、リスクヘッジは、お金は・・・と全て議論になり、それならやめようという話にもなるのですが、一方自立できる人たちなのです。ある程度、人なりに合わせた、それぞれで自立できるように自由にやれるようにの、お祭りです。ワンパターンも10集まれば10パターン、一つの団地だけでいつも焼きそばでは面白くないが、主題を決めて、人を当てはめようとはしなかったのです。それでも、いささか繋がっていることも楽しんでいる。スタンドアローンのパソコンをサーバーでつなぐように、絶妙のバランスなのです。

田中:ゴミについてですが、事務局としてはやはり気になるので、次の日見に来ています。

富永: 今は、指定管理者が定例・定期の清掃をしているので、目くじらを立てるほどの状況にはなりません。こうした土台があるからやれるのです。今は、指定管理者として公園の使用許可も出せるようになりました。従って、高賃金の市職員が仕事をする必要がないのです。地域人がやっているという面白さは、事務局の二人がビールを飲んで、焼きそばを食べても誰も当然と思っているところです。

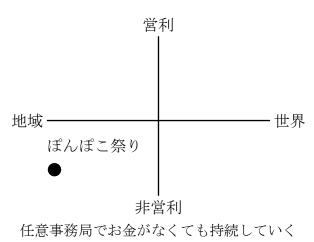
質問:市民活動団体も祭りに参加するのか?

富永:長池ぽんぽこ祭りは6団地の地縁型でやっています。コミュニティで積極的にはやりたくないけれど、皆がやるなら、やるかという水準で揃うのです。一方フラダンスやカメはテーマ型のコミュニティをつくって、自由に参加していただいており、たてよこ織り込みになるのです。それらを、タテヨコにつなぐ、地域のはた織人が事務局人といえるでしょう。

人・物・金・時間の関係性を明らかにして、持続可能 にするのがコーディネーターです。

一方、マーケティングの目から見ると、このまちはうるさい人が多いのです。その人達が喜ぶ祭りは何かを発見発明して、結果として持続する祭を選ぶことが出来ました。祭りはかくあるべしで始めたら、今頃は途絶えているでしょう。





### 第6回「長池ぽんぽこ祭り」

質問:救急体制は?

田中:特に用意してはいないのですが、近所のお医者 さんにいざという時の協力を要請しています。長池公園 自然館常備の簡易ベットで休むことも可能です。お医者 さんも地域人の方です。どうしてもという時は救急車を呼 ぶようにしています。

富永:ちょっとの事故でも大騒ぎするのが肝心です。対応が悪いといわれないようにおおごととして対応するのです。このノウハウは保育園に教えてもいらいました。このようなプロフェッショナルの得意技協力のバックアップも必要で、こうした専門人の融合・フュージョンも不可欠です。

質問:何かやらせてくれと言ってきたら受けるというが、 事務局から今風のものやその団体に働きかけることがあるのか?

田中:原則は申し出を受けるということで、働きかけることはしていません。そして、やらせてというものが重複しすぎることがなければ受けるようにしています。

富永:お祭りにいたる前の最初、2ヶ月に1回団地紹介のために各団地を廻り、それでほぼ1年かかりました。やや知り合いになったところで、次に挨拶だけではということで、お祭りをしようと提案したのですが、各団地毎にしかなりませんでした。お祭りの一番最初は0を1にするため、営業して呼び込む努力もしてきました。今はこの地域ではビックネームになって、呼び込みの必要もなくなり、先方から申し込んでくれるようになったのです。長池公園自然館の職員は、お祭り当日はお祭りには入らず仕事に徹しています。いざとなれば救急車も呼ばねばならない役回りなのです。

質問:祭の当日、売り買いに現金以外は使っているのか?

田中:祭全体の共通券はありません。団地毎に無料券を渡しているところもあるようです。それは、その団地のテントにしか使えません。そういう違いもそれぞれが認めるようになっています。

富永:地域では、統制する・共通にすることの方に無

理があります。せめて毎年1回、同じ場所に集まりましょうと約束し、内実はそれぞれバラバラといってもいいでしょう。

質問:お祭りはパッチワークですね。

富永:もめごとなしにするのも方法があり、無理せず、 自由に泳げる範囲を用意して、否定形は用いないことが 肝心です。

田中:隣同士では話も始まるし、テントも並べ方にも工 夫し、毎年変えています。

富永:挨拶できることが地域人のあかしです。大抵の方はどう挨拶するかに悩んでいるのです。通りすがりでも挨拶しない大人が多いです。皆でお祭りを一緒にやれば、自然に挨拶や会話も生まれるでしょう。そこでテーマ毎に好き同士が集まってもよいではないかと、一つ一つ悩んでノウハウを積み上げてきたのです。



本日の講師 田中氏と富永氏 平成 21 年 10 月 24 日 長池公園自然館にて

## 第6回「長池ぽんぽこ祭り」

